

2019年12月18日

米国オハイオ州立大学ロバート・クック教授招聘報告

明治大学文学部

佐々木憲一

去る2019年11月26日から12月2日まで、明治大学研究者交流支援制度を利用して、オハイオ州立大学人類学科教授のロバート・クック先生を日本に招聘し、研究活動を共にした。クック先生は北アメリカ先史時代ミシシッピ文化の、特にマウンド（墳丘墓、儀礼用の大規模な「塚」、豪族居館の基壇、土塁などを含む）を主たる研究のテーマとしておられる。したがって、日本の古墳時代の古墳や関連する遺跡を私が説明しながら見学いただくことで、日本の古墳文化とミシシッピ文化のマウンドを世界史のなかに位置づけ、日本と北アメリカのマウンドの比較を目的とする共同研究を将来的に発足させることを目論んだのである。

クック先生の日本での日程は次の通りである。

- 11月26日：成田空港到着、生田のゲストハウスへ
- 11月27日：午前中、国際連携本部訪問、明治大学博物館見学；午後、東京国立博物館見学
- 11月28日：群馬県高崎市・前橋市・渋川市の古墳時代遺跡や関連する博物館見学；この地域は榛名山と浅間山の度重なる噴火のおかげで、古墳時代の遺跡がポンペイ遺跡のような、極めて良好な状態で埋没しており、古墳はもちろんのこと、巨大前方後円墳に埋葬された地元豪族が生前儀礼を執り行い、また生活もしていた豪族居館遺跡、そして豪族の生活を支えた水田遺跡がセットで残っており、古墳時代の社会を「目の当たり」にすることができる。具体的には、かみつけの里博物館、保渡田古墳群（5世紀第4四半期から6世紀初頭の100m級前方後円墳が3基）、北谷豪族居館遺跡（5世紀末）、^{きたやつ} 宝塔山古墳・蛇穴山古墳（7世紀の巨大方墳）、前橋市総社歴史資料館、群馬県埋蔵文化財調査事業団の展示室（金井東裏遺跡の資料など）を回った。帰京したときに、「人生最高の一日」と言ってくださった。
- 11月29日：午後、大学院の「総合史学研究Ⅱ」で「ミシシッピ文化の起源—前代からの伝統と革新」というテーマで講演。教員と院生合計17人が拝聴した。佐々木が通訳したが、活発な質疑応答が行われ、有意義であった。
- 11月30日：早朝、ゲストハウスを出発し、新横浜から新幹線で新大阪へ向かい、午後1時、近鉄南大阪線土師ノ里駅で大阪府教育委員会三好玄技師と大阪府羽曳野市教育委員会伊藤聖浩参事と合流、応神天皇陵古墳など世界遺産古市古墳群をまず見学し、5世紀の古墳の「巨大さ」を堪能してもらった。午後4時に、大阪府内の古墳文化を紹介する大阪府立近つ飛鳥博物館を見学し、見学した古墳を日本史の中に位置付けてもら

えるようにした。クック先生は、古墳文化だけでなく、近つ飛鳥博物館の展示のあり方にも感動なされた。奈良県桜井市内に宿泊。

- 12月1日：奈良県立橿原考古学研究所の杉山拓己研究員に車を出してもらい、最古の前方後円墳である桜井市箸墓古墳、桜井茶臼山古墳（前期古墳）、明日香村都塚古墳（6世紀第3四半期の方墳；首長墳が前方後円墳から方墳に変化した先駆けとなった古墳）、石舞台古墳（7世紀第1四半期の、蘇我馬子の墓とも目される巨大方墳）、高松塚古墳（8世紀初頭の壁画古墳）、橿原市見瀬丸山古墳（上ることができる300m前方後円墳2基のうちの1基）、高取町市尾墓山古墳（6世紀初頭、初期の横穴式石室を有する前方後円墳で、継体大王の側近の墓と目される）、広陵町^{ほくや}牧野古墳（高さ4.5mの巨大横穴式石室を内蔵する6世紀第3四半期の大型円墳）、河合町ナガレ山古墳（5世紀初頭の前方後円墳で馬見古墳群を構成する）を見学した。京都市内に宿泊。
- 12月2日：午前中、京都府立大学副学長菱田哲郎先生の案内で、大阪府高槻市所在、国史跡今城塚古墳と国史跡新池埴輪窯を見学した。今城塚は真の継体大王陵と考えられる6世紀第1四半期の190mの前方後円墳で、形象埴輪による祭祀のシーンが正確な発掘調査成果に基づいて復元してある。新池埴輪窯は、今城塚など高槻市内の諸古墳や大阪府茨木市に所在する宮内庁指定の継体天皇陵古墳（5世紀の前方後円墳、継体大王は531年に死去）に埴輪を供給した窯で、工人の作業場などとセットになって発見され、保存、史跡公園化されたものである。午後、関西空港から成田空港に移動し、夕刻、成田空港からボストンに向けて帰国なされた。離日に際して、「人生最高の1週間であった」と言ってくだされた。